

ふるさとの育む人

🌱 #33「水稻」



育む人 **よこて発酵文化農業生産部会**
部会長 佐藤淳美さん(右) 副部会長 高橋博さん(左)

生産者数：16人 生産品目：水稻20畝、野菜類5畝

猛暑を乗り越え丹精した株稲は最高賞を受賞！

「とにかく嬉しかった」。よこて発酵文化農業生産部会の佐藤淳美部会長と高橋博副部会長は、満面の笑みで声をそろえます。昨年11月に能代市で開かれた秋田県最大の農の祭典『第135回秋田県種苗交換会』の農産物出品展示※1において、同部会が出品した水稻は、最高賞となる「農林水産大臣賞※2」を受賞。さらに、今回で3年連続「1等(知事賞)」を受賞し、殿堂入りとなる「顕彰状」の受賞が決まりました。この夏の猛暑を乗り越え丹精した見事な株稲は、開会前日に会場を視察された皇太子さまもじっくりと観賞されるなど、ひときわ注目が集まっていました。



株稲はまさに“水稻の一生”そのもの

同部会は、「発酵」をキーワードに、地域の食文化の継承や発展など様々な取り組みを行う「よこて発酵文化研究所」(多賀糸敏雄所長、会員数140人)の構成組織。40人の部会員のうち16人が、合計で米20ha、野菜5haを栽培。発酵を活かした土づくりの研究や作物本来の力を引き出す研究を通して、安全安心でおいしく良質な農産物の生産に取り組んでいます。

栽培には、米ぬか発酵肥料を使用するほか、病害虫対策に有効とされる菌を取り入れてその実証に取り組むなど、独自の研究を重ねながら研さんを図っています。研究会の幹事長も務める佐藤さんは、「根を付けた株稲は、まさに水稻の一生そのもの。水稻部門への出品は1年間の“総決算”であり、次の年の糧でもある」と、農産物出品展示への参加の意義を強調します。



オリジナル日本酒など取り組みが広がる

同部会は2010年度から酒米の作付けも開始。横手市増田町の醸造元「日の丸醸造」(佐藤譲治 代表取締役社長)に酒米を提供し、同年からオリジナル日本酒『若勢 醸ん(わかじえ かもん)』として2000本が販売され人気を呼ぶなど、取り組みが広がっています。

「今後は酒米の作付けを増やし、日本酒の消費拡大にも力を入れたい」と意気込むふたり。地域の食文化を見据えた様々な夢が、いま、田畑から広がっています。

※1 「農産物出品展示」…種苗交換会メイン行事の一つ。今年は「①水稻」「②畑作物・工芸作物」「③果樹」「④野菜」「⑤花卉」「⑥農林園芸加工品」「⑦畜産品・飼料」「⑧林産品」の8部門に計2007点が集結した

※2 「農林水産大臣賞」…農産物出品展示において「1等(知事賞)」の中で最も優れたものに与えられる。今年は3団体5個人が受賞した